



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 14号

平成22年度の予定

今年度も、海苔に関するものや親子で楽しめるものなど、さまざまな催し物を予定しております。年間の主な予定をご紹介します。いずれも人気の催しですので、お申し込みはお早めに！



毎月の催しもの

内容の詳細は、区報や館のWEBサイトをご覧ください。

申込みは、午前9時から電話で受付けています。

土日祝日も受付けています。電話：03-5471-0333

開催日	催し物	受付開始日
4月11日(日)	海苔つけ体験	終了しました
5月9日(日)	一日まるごとのりのり体験	定員になりました
6月27日(日)	海苔網で袋作り	5月21日(金)
7月25日(日), 8月22日(日)	浜辺の生き物探検隊	7月11日(日)
7月29日(木)	ペーパークラフト「ベカブネ作り」	
9月12日(日)	海苔簀編み体験	8月11日(水)
10月17日(日)	海苔簀編み体験	9月21日(火)
11月21日(日), 12月5日(日)	海苔の街を伝える(全2回)	10月21日(木)
11月28日(日)	海苔つけ体験	
12月12日(日)	海苔つけ体験	11月11日(木)
1月9日(日)	海苔つけ体験	12月11日(土)
2月13日(日)	海苔つけ体験	1月11日(火)
3月13日(日)	海苔つけ体験	2月11日(金)



ミニイベント

NPO法人海苔のふるさと会では、大森海苔のふるさと館を会場にした催し物を開催します。

■ゴールデン・ウィーク企画

どなたでも、気軽にご参加できます。

5月1日(土)、5日(祝) かぶとづくり

5月2日(日)、4日(祝) ヒマワリ・プロジェクト

5月3日(祝) ビデオ上映会

5月4日(祝) 紙ヒコーキをつくろう

■絵本の読み聞かせ&公園散歩

幼児とその保護者対象。

毎月第四火曜日を予定しています。(※ただし、12月は21日、3月は15日に行います。)



■季節飾り

五月飾りや七夕飾り、ひな人形など、季節の行事に合わせた飾りや催し物を行います。地域の季節の行事やくらしなどを知る機会にしたいと思います。



■その他の予定

他に次のような催し物を予定しています。詳細は、館の掲示板やホームページなどでお知らせします。

5月23日、30日、6月6日、13日(全4回)

「ふるはま生き物クラブ」対象：小学生4~6年

9月「お月見コンサート」

「海苔つけ教室」

(グループ・団体申込制)

「海苔のビデオ上映会」

「鳥のぬいぐるみ作り」 など



報告**平成21年度の報告****毎月の催し物**

「海苔網で袋づくり」「海苔簀織り体験」など海苔の体験学習、「浜辺の生き物探検隊」「海苔の街を伝えていこう」など東京海洋大学との協働企画など、17回の催し物を行い、485名の方々にご参加いただきました。ありがとうございます。

ミニイベント

NPO法人海苔のふるさと会では、大森海苔のふるさと館を会場に、海苔つけ体験や次のようなミニイベントを開催しました。

「絵本の読み聞かせ&公園散歩」
「季節飾りと工作遊び」「お月見ミニコンサート」「ひまわり・プロジェクト」

また、共催事業として下記の催し物を行いました。

「大田海苔劇場」主催：ミュージアム・シアター・ワークショップ（MTW）

「東京湾の海苔漁業のお話を聞く会」

「東京湾の美味しい話」主催：東京海洋大学江戸前ESD協議会

**入館者数**

平成21年度は、79,075人の入館者にご利用いただきました。また、年度最終日の3月31日には開館からの入館者数が16万人に達しました。皆様のご来館、誠にありがとうございます。

今年度も、親しみのある館となるよう心がけていきます。職員一同ご来館をお待ちしております。

**海苔つけ体験**

この体験は当館の一番人気の催し物です。公募や小学校の授業など、合計で20回1,247名の方々に体験していただくことができました。

それでも希望者が大勢いらっしゃるため、今年からは公募の定員を50名から80名に増やします。

ぜひ、ご家族やお友達と一緒にご参加ください。

**テレビ等の取材**

年間で延べ74回の取材を受け、テレビや雑誌、WEBサイトなどでご紹介いただきました。

テレビー「食彩の王国」（テレビ朝日）

「出沒！アド街ック天国！」

（テレビ東京）

出版物ー『「旬」がまるごと』（ポプラ社）

WEBサイトー「羽田経済新聞」など

協力者・サポーター

現在、協力者は約60名、サポーターは12名の登録があり、当館の活動を支えていただいております。

催しでは、元海苔生産者の協力者が指導役、サポーターがその補助をつとめています。普段は、学習会や船に乗って海苔の作業の見学会などで、学習も行っています。

いずれも、館の活動には欠かすことのできない心強い存在です。ありがとうございます。

今年度は、協力者とサポーターの連携を強め、技術と知識の伝承にも力を注いでいきたいと思っています。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」14号

平成22年5月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 15号

ふるはま 生き物 クラブ

東京海洋大学との協働事業として、近隣の小学生を対象に、ふるさとの浜辺を使って科学的な思考力を育む催し物を開催しました。

企画を担当した、東京海洋大学4年の和木美玲さんの報告です。

5月23日から6月13日までの1ヶ月間、毎週日曜日に「ふるはま生きものクラブ」を開催いたしました。「ふるはまにはどんな生きものがいるの?」という子供たちの疑問をもとに、科学者の研究活動と同じように「探す」「調べる」「記録する」「発表する」というテーマで全4回のプログラムを行いました。

初回はあいにくの小雨でしたが、子供たちは元気いっぱいふるはまに向かいました。手網をもって



果敢に採集をする子、学生が投げた投網を自らの手でひっぱって漁師気分を味わう子など、それぞれ夢中になって生きものを探しました。

2回目は、生きものをよく観察して、特徴を見つめながら図鑑を使いふるはまの生きものの名前を調べました。「ボラの尾の形はハートっぽい」など豊かな発想で表現をしていて、学生ともども生きものについて学ぶ機会となりました。

3回目では、ふるはまの生きものの絵と特徴を描いた「生きものカード」を作り、見つけた生きものを記録しました。また、実際に科学者が使っている標本を見せると「すごい!」「これ本物?」「作りたい!」という声上がるほど子供たちは興味津々でした。

最終回には、東京海洋大学の河野博先



生をお招きし、子供たちは自分が調べた生きものを海の科学者に発表しました。発表前は緊張していた子も、いざ本番とな

ると前を向いてハキハキと発表をしている姿に、子供たちの成長を感じ取ることができました。後半では、河野先生が東京湾に生息する生きものの楽しい授業をして下さいました。先生への質問の時間にはたくさんの手が上がり、皆、海の生きものについてもっと知りたいようでした。最後には、生きもの調査隊認定書と生きものカードセットを配布し、長期にわたるプログラムを無事終了しました。

子供たちが一生懸命描いた生きものカードはふるさと館に寄贈させていただきました。ぜひ、ご覧いただき、ふるはまにどんな生きものがいるのか、みなさんも一緒に探してみてください。

(東京海洋大学：和木美玲)



夏休みの 催し物の お知らせ

申込みはいずれも
7月11日(日)
9:00~電話受付

7/25(日)、8/22(日)
浜辺の生き物探検隊

対象：小学3年生以上
費用：100円/定員：各回20名(先着)
持ち物：タオル、飲み物、帽子、ぬれてもよい服と靴、着替え

7/29(木)ペーパークラフト
「ベカブネづくり」

対象：小学3年生以上
費用：100円/定員：30名(先着)
持ち物：ハサミ

夏の大森 人々の祈り

ヒビ抜きが終わり夏になると、つかの間の休息が訪れます。この時期には、船下ろし(進水式)や婚礼、仲間との神社・仏閣への参詣、氏神のお祭りなどが行われていました。

4月初めは成田山参詣、7月は武蔵御岳、大山阿夫利神社、富士講の富士登山などが海苔生産者の信仰を集めていました。参詣は地域の講の仲間で行われ、普通は大将(一家の年長者)が参加しましたが、中には「ワレ(お前)、行ってこいよ」と言われて年下の者が行く家もあったそうです。



大山に奉納された
海盛講の石碑

大山阿夫利神社(神奈川県)は、海運の神として大森では特に深く信仰されています。神社の水をかけると海苔がよく育つといわれました。途中で温泉に寄って遊ぶことができるので、参詣の中でも人気が高かったそうです。

海苔が終わって50年近く経ちますが、現在も浜端地域の海盛講、堀之内地域の海秀講、前方地域の(大) (まるだい) 講など、地域ごとに大山参りが続けられています。

さて、6月に入ると、厳正寺から水止舞(みずどめのまい)の練習の音が聞こえてきます。

水止舞は、東京都無形民俗文化財に指定されている680年以上続く行事です。干ばつの際に祈祷したところ数年後は長雨となり、再び祈祷し雨が止んだことから、水止舞を奉納するようになりました。

行事の前半は、龍神に水をかけて練り歩く「道行き」で、後半は境内の舞台上、雌獅子を巡って花籠の間を若獅子と雄獅子が勇壮な踊りを繰り広げる舞が舞われます。



この行事は、例年、晴天に恵まれることが多いそうです。獅子と花籠の役は、面の重さや蒸し暑さに耐えながら踊りと演奏を続けるため、相

夏の間、海苔の生産者の暮らしはどんなものだったのでしょうか。元生産者の方々から伺った当時のお話と、現在も受け継がれている行事を織り交ぜながら、海苔の街の風景を辿ります。

当な体力と精神力が必要となります。しかし、水止舞保存協会の熱心な指導で、後継者が不足することなく若い世代が育っているのだそうです。



練習は週2回の全10回で、その風景を見学させていただきました。本殿にビリビリと響く太鼓と笛の音が、伝統を担う誇りと熱意を物語っているようでした。

やがて、水止舞と盆が終わると、季節は猛暑を迎えます。7月20日過ぎには海苔簀の材料であるヨシ刈りが始まり、本格的な海苔の準備シーズンへと移っていったのでした。(五十嵐)

平林義正氏、鳴嶋享郎氏、鳴嶋光吉氏、田中宏氏、福本一良氏、鳴嶋兼雄氏、平林勲氏を始め、多くの元海苔生産者の方々に貴重なお話を聞かせていただきました。この場をお借りして感謝を申し上げます。



<インフォメーション>

●厳正寺(大田区大森東3丁目7-27)

★水止舞

7月14日(水)午後1時に、大森東中学校正門前からスタートします。

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」15号

平成22年7月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 16号

大森海苔漁業の思い出

特定非営利活動法人海苔のふるさと会 副理事長 中村博



海苔漁業は、毎年九月一日に豊作と海上の安全を祈願する「建方祭」で一年がはじまる。海苔漁が終わってしまっただけでも、鎮守浦守稲荷神社で執り行われている。

秋とはいえまだ日中は暑く、河岸での仕事は、ヒビ(竹棒)仕度やせつころ(フジツボ)落として大忙しです。仕事を終え、家に帰る途中近所の家々では、晩ご飯のおかずのサンマを焼く匂いや煙がもうもうと立ち昇っていた。疲れた体には、なんともいえぬ秋の心地よさを感じさせる夕暮れであった。

■九月～十月

移植場※に張る網を家の前の道路に広げ、長さ二十五間(約四十五メートル)もの網を五枚重ね、丸めて一つ網にする。移植に行く前日は、午後から船に食糧や水を積み込み、シートを掛けて明日を待ち、当日は夜が明けぬうちに河岸を離れ、一路、千葉県の移植場(八幡・久保田など)へ向かう。海が凪ている時は、一面に油を流した様に穏やかである。海面には時折、スナメリ(ネズミイルカ科の哺乳類)の姿も見られ、快適な船路である。

現地での網張りですが、水温は約二十一度位の中、当時は胸までのゴム長靴は買ってもらえず、ボウタ着のまま海に飛び込んでの作業でした。作業を終え船を浅瀬に泊めて船内で一夜を明かすのですが、船底に「ピチャピチャ」と打ち寄せる波の音で眠れぬ夜を過ごした事もあった。

■十一月 本格的な海苔取りのはじまり

九月下旬に移植場に張っておいた種付網を取りに行き、大森下の漁場に張り、後は手入れを待つ。
家では、海苔乾燥場作りや海苔つけ場の支度で夜なべ仕事になることもよくあった。七五三のお祝いの頃には、早いものでは新海苔の初摘みの時期になり、数は少ないが色艶の良い新海苔が出回る。

■十二月～二月

最盛期には、深夜の二時に起床する事もよくあり、寒い中、暖房もない海苔つけ場では裸電球の明かりの下で、海苔切りまな板の音も高く、母親の作ってくれた熱い甘酒を飲み、体を温めながら海苔つけに励んだものです。外の空気は冷たく、ガラス窓には沢山の氷柱が垂れ下がり、一年の中で最も厳しい寒さでの作業であった。

つけあがった海苔簀を乾棒に掛け、夜が明ける頃外に乾し出すが、あまり早過ぎると、氷付いてしまうので十分注意しなくてはならない。
天気の良い日は乾燥場で海苔乾しをするが、家々の煙突からは石炭の煙が立ち昇り、これもまた海苔屋街の象徴たる風景でした。

このように海苔製造業者の一年が過ぎていきます。そして、非常に残念なことに、経済の急成長とは裏腹に昭和三十八年で海苔漁は幕を閉じた。本当に寂しかった。これから先どうしたら良いのか途方に暮れ、「陸に上がったカップパ」と仲間同士で夜通し談義したものであった。

海苔漁を通じ、数え切れぬほど多くのことを学び、何よりも貴重で輝かしい思い出となった。

海苔漁の終結から四十五年の歳月が過ぎ、夢にも思わぬ出来事が平成十九年の暮れに起こりました。絶滅危惧種とまで言われた「アサクサノリ」が「大森ふるさと」の浜辺で復活したのです。かつての海苔の本場「大森」に相応しく、黒くて色艶の良い海苔が採れて大変感激いたしました。

「大森 海苔のふるさと館」では本場大森海苔産業の先人達が使用した諸道具をはじめ、沢山の貴重な資料が保存・展示されており、是非多くの方々に大森海苔の歴史と文化に触れていただき、そして何よりも、この輝かしい歴史が時代と共に風化することなく永く語り継がれることを切に願うものであります。

※移植 海苔網に海苔の種(胞子)を付け、発芽してから、漁場に網を張ること。海苔の種が付きやすい場所と、海苔が生育しやすい場所は異なり、大森では主に千葉方面で種付けを行った。

(この文章は、「おおもりひがし地域情報『いつのわ』第七〇号」(わがまち大田区大森東地区推進委員会平成二十年七月)に掲載したものを再掲載させていただきました。)



夜明け前の海苔つけ風景

浜辺の 生き物 探検隊

毎年、夏休みには、東京海洋大学との協働事業として、ふるさと浜辺の生き物を通して、身近な海とわたしたちのくらしの関わりについて学ぶ体験学習会を行っています。企画を担当した、東京海洋大学大学院1年の神崎かおりさんの報告です。

大森 海苔のふるさと館（以下、ふるさと館）では7月25日（日）と8月22日（日）に「浜辺の生き物探検隊」を実施いたしました。

当日は元気な約20名の子どもたちがふるさと館に集まり、自己紹介のあとグループに分かれて大森ふるさと浜辺公園（以下、ふるはま）に出かけました。子供たちは大学生と一緒に一生懸命に生き物を探して、網などで捕まえました。ふるさと館では、採集した生き物を水槽に入れて様子を観察し、「どこにどんな生き物がいたかな？」ということを出しながら、大きな模造紙を広げて「ふるはまマップ」を作りました。その



マップから、ふるはまは小さな稚魚たちが育つための大切な「魚のゆりかご」であることや、人間も生き物たちもふるはまの周りで共に生活していることをグループ活動で確かめました。



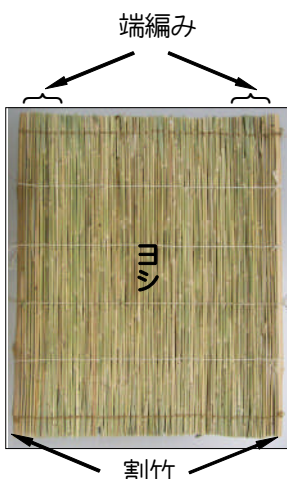
今回の催しでは保護者の方々にも多くご参加いただきました。ふるはまでは生物採集にご協力いただき、またふるさと館では一緒に環境について考えることができました。身近な環境を見守る（観察すること）は、環境を守ることのスタート地点です。是非、ふるはまに足をお運びいただき、生き物を観察してみませんか？（東京海洋大学：神崎かおり）

ヨシ刈り作業と海苔簀編み体験 ～夏から秋にかけての海苔作業～



7月22日（金）、元海苔生産者と共に「海苔簀編み」に使うヨシを刈りに行きました。植物の名前としては「アシ」です

が、大森の元海苔生産者たちは「ヨシ」と呼びます。「善し悪し」の「悪し」に通じて、縁起が悪いためだそうです。



今回は当館のサポーターとして活動している「はまどの会」も参加しました。直接指導を受けることで、刈り方や長さの揃え方だけでなく、協力し合って作業を進めていく、そんな昔の雰囲気も感じる事ができました。

「海苔簀編み」に使うヨシは、葉っぱの生えている部分が簀の内側になり、根元の部分がその外側になります。この根

元の部分は「端編み」と言い、硬さがあるため、海苔乾し枠の金具にあたる部分に使います。また、ヨシの根本ではなく、ササを使っていた家庭もありました。



その他にも、先人たちの知恵がたくさん詰まった「海苔簀編み体験」、ぜひご参加ください。（りょう）

「海苔簀編み体験」

【日時】9月12日（日）、10月17日（日）

いずれも午後1～4時

【対象】小学3年生以上

【定員】各回先着20名

【参加費】無料

【申込み】9月分は受付中。10月分は9月21日（火）の午前9時から電話にて受け付け。

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」16号

平成22年9月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 17号

海苔の種付け修行 ~千葉県・市川市~

9月27日(月)、私は千葉縣市川市で海苔の生産を行っている海苔漁家のもとへ、研修に行っていました。

生育させるための網や竹を『ヒビ』と呼びますが、それにより海苔を人工的に育てることを、「海苔の養殖」と言います。そして、今回の研修では、その「海苔の養殖」の初めの段階である、海苔の種(胞子)を網につける作業を行いました。

実は私、大森での海苔養殖は見たことが無く、現在の海苔養殖も見学するのは初めてなのです!大森での海苔養殖は昭和38年の春に終り、半世紀近くが経ちます。東京湾ではそれ以降も神奈川、千葉で海苔の生産がおこなわれてきました。

時代が進むにつれてもちろん技術も進歩します。現在ではほとんどの作業が機械化され、作業効率は上がっています。しかしその反面、設備への投資に



資金が必要になります。今回の種付け作業は全部で3日間連続の作業なのですが、その3日間使うための設備に数十万円かかるそうです。また現在は冷凍技術も進歩しており、種をつけた海苔を冷凍しておくことも可能になり、長期保存ができるようになりました。

当日は種をつけた網を海に張りだす作業も行いました。10枚1束にまとめた海苔網を、支柱に結び付けていく作業です。海の上は陸とは違い、陸では寒くはなかったのですが、海上では冷たい風が吹き、手がかじかんだのを覚えています。また、雨が降っ

ており視界が悪く、また波の揺れもあり、お手伝いすることも簡単ではありませんでした…。しかし、現役の海苔生産者は別!慣れた手つきで網を広げ、次々



に支柱に結んでいきます。私は悪天候により立ち会えなかったのですが、冷凍保存しておいた前日、前々日に種をつけた網も、研修当日にあわせて海に張りだしたそうです。

今回、海での作業を通じて「海での作業は経験が大事である」と、感じました。海での作業は危険が伴い、時には生死に係わります。安全に作業するには海の状態をただ見るだけでなく、予測しなければなりません。先祖代々海に出て、海苔を生育してきた中での経験則。それは家により、または、地域により違いはありますが、それは一つの宝物なのかもしれません。

今回は「海苔の種付け」でしたが、今後の作業として、少し海苔の成長した網を5枚1束に分け、使わない網を冷凍保存する作業があります。また、その他にも、冬本番の海苔とりや、漁場の片付けの棒抜き等、いろいろな作業を体験していきたいと思います。また、その経験を活かし、たくさんの方々に伝えていき、深く、広く海苔について知っていただきたい、と改めて感じさせられる研修でした。

(りょう)



サポーター「はまどの会」 の活動紹介

大森の海から平和の波を!!

私が“はまどの会”のメンバーにさせていただいたのは、私が通信制の大学4年生の時です。環境学のレポート作成のため、私の住んでいる“大森の海苔”のことを書こうと思った事がきっかけでした。そして、五十嵐さんはじめ、小山さんにお世話になり、レポートを仕上げ、無事卒業することができました。お礼に伺った際、サポーターとしての活動の事を知り、少しでも地域のお役に立てるならと登録させていただきました。仕事もしており、活動時間も少ないのですが、そんな状態でも、海洋大学の出前講座で東京湾の事など学習したり、千葉県へアクアラインを通り、元海苔生産者たちと研修に出かけたり、実際の活動は11月の海苔つけ体験のお手伝いでした。親子づれで“海苔つけ”される姿は素敵でした。私も初めての海苔つけを体験させていただき、潮の香りのする海苔を、今でも記念にしまっております。

先月は、海苔簀作りを主人と共にさせていただきました。海苔簀作りは、地元の元生産者から、ていねいに教えていただきました。九月はお月見コンサートの開催もあり、ご近所のお子さんと一緒にゆったりとした時間を過ごしました。このように、地元の方々との交流もサポーターさんたちとの語らいも、とてもうれしい時間です。10月は、羽田空港が国際化となり、大森の海は、更に、世界につながる海となるのですから、想いも新たに海外からも多くの方が、大森海苔のふるさと館に、来館されることを夢みて活動していきます。

(伊藤奈穂美)



サポーター「はまどの会」は、海苔や地域の文化などに興味のある方々に、大森 海苔のふるさと館をより広く深く活用していただく

ための活動です。

メンバーは、年間を通して募集しています。

ご興味のある方は、ふるさと館の窓口にて詳細のチラシと応募用紙を配布しています。ご連絡をお待ちしております。

当館では、10数名のサポーターの方々が、海苔に関することを始め、季節飾りなどさまざまな活動で活躍していただいています。実際の活動の紹介や、感想などを、メンバーの方々に寄稿していただきました。

ふるさと館のサポーターになって

みなさんこんにちは！ 私は2009年6月にふるさと館のサポーター「はまどの会」になりました。サポーター第一期生です。

丁度去年の今頃、大森ふるさとの浜辺公園前の沖、種つけされた海苔網を小舟で見に行ったあたりから実際の活動が始まったように記憶しています。その後大森の街歩きやこの夏には海苔簀の材料のヨシ刈りもしました。館内では海苔つけや袋作りも。また裏方の作業に海苔はがしや簀洗い等もあります。私はこの簀洗いが好きで、出来るだけ参加するようにしています。理由は勢い良い冷たい水で簀を洗っていると心も洗われるようで気分そう快になるからです。作業後のお茶を飲みながらのおしゃべりもまた楽しいです。



これからも自分の体調と相談しつつ、無理せず続けていきたいと思っています。皆さんもいろいろな体験をふるさと館でしてみませんか？

(M・I)



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報
「大森 海苔のふるさと館 ニュース」17号

平成22年11月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333/FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館ニュース新春号(18号)



新年ご挨拶

平 林 義 正

新年明けましてお年玉とうございます。
 昨年色々な体験学習を実施しました処、毎
 回定員をオーバーする申し込みを頂き、参加
 者が喜びに満ちた意義ある学習が実施されま
 したこと、誠に喜びに堪えません。
 特に昨年より始めた海苔はがしまで行う「
 一日まるごと」のりのり体験には大好評を頂き、
 また丁々の「駅かうハイキング」コースに入
 ってより来館者も急増し、都発行の外国人向
 け観光案内には区内二番目に紹介されるなど
 外国人の来館者も増え、九月二十日には二十
 万人の来館者を迎え館の知名度が更にアップ
 致しました。祖先が使用した諸道具が国宝(重
 要文化財)になって陳列されている館内は
 終日賑わっております。
 職員一同心温まるお迎えとしております、
 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 理事長)



あけまして、おめでとうございます!

大森海苔のふるさと館
職員一同



ふるさと館の周りでは
いろいろな植物を育て
ています。ひまわり、
半白きゅうり、ゴーヤ、
菜の花・・・今年は何を植
えようかな?海苔のことを伝
えていくことはもちろん、来た人に季節を
感じてもらえるような館にしたいです。

(小山文大)

昨年、平成22年を“振り返る”
ベスト3

- 1、当館一番人気の海苔つけ体
験の申込みが絶えず来館者20万人
突破。(感謝!!)
- 2、海洋大学のみなさんとの協働事業の実施(成功!!)
(①生きもの探検隊 ②生きものクラブ ③まち歩き)
- 3、昨年10月、羽田空港が国際化となり更に海外から
のお客様が増えたこと。(感激!!)

さ～て、今年はどんな年になるのかな!? (高橋義人)



昨年は、はまどの会
も2年目を迎え、海苔の
指導者に新たなメンバー
も加わってくださるなどう
れしい出来事がありました。
新しい年も、小さな一歩、
隣の一人から関係を広げて
いきたいと思います。よろ
しくお願いします。

(五十嵐麻子)



今年はふるさと
の浜辺公園で、砂
入れの作業がありま
す。たくさんの魚が集
まり、たくさんの鳥が羽
を休める、そして元気に海
苔が育つ。そんな自然豊かな海に
なってほしいですね。

(平山龍)



昨年七月、オー
プン以来の来館者
数が20万人を突破しま
した。今年も更に多彩なイ
ベントを企画して、来館者数の上積み
を図りたいと思いますので、応援
よろしくお願いします。

(宮川修)



いろいろな所で「海苔のふるさと館」
に行ってきたよ、海苔って冬にとれ
るのを初めて知ったよ。とお聞きし
ます。三年目で20万人以上のみなさま
に来て頂きありがとうございます。今年も
案内の窓から笑顔で「こんにちは!!」

(渡辺久江)

特定非営利活動法人 海苔の
ふるさと会会報「大森海苔の
ふるさと館 ニュース」18号

平成23年1月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法
人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の
森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



来館のお客様のご要望から実現したお土産の「焼
きのり」は美味しいと好評です。大森の間屋組合
さんのご協力から産まれました。またアンケー
トに「清潔で気持ちいい」という声がたくさん
あります。清掃スタッフの心意気のたまものです。
皆さんの声お待ちしております。(信田幸子)



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 19号

報告

アサクサノリ生育観察事業

～大森ふるさとの浜辺公園における海苔づくり～

この事業は、地元住民による「アサクサノリ生育観察実行委員会」が実施しております。
当館のブログや掲示やニュースなどを通じて、この活動を広く皆様にお知らせしています。

今年度は干潟工事の実施に伴い、一月いっばいで事業を終えることになりました。

四年目となった今年度の事業の一番の成果は、竹ヒビに付いた海苔を確認できたことです。竹ヒビを建てるために昨年の夏から事前準備として竹の油分



を取り除く為、一ヶ月程度海中に沈めておくアク抜き作業を行ない、その作業の後に竹ヒビをつくるヒビごさえ作業を行ないました。

さらに大森海苔のふるさと館では海苔の種である胞子を作る糸状体をカキガラで培養する作業も試みました。ところが汲んで来たそのままの海水には塩素成分が多いため、糸状体を培養することができないことも学びました。そこで毎朝、水槽内の海水温度の管理はもちろんのこと塩素成分を限りなく排除させた海水づくりにも取り組みました。

昨秋、往時に倣い実際に竹ヒビを建てる為に使っていた振り棒と呼ばれる道具を使い浜辺近くの海に竹ヒビを建て、その枝にカキガラの入った袋を結び、海底に沈め、海苔の種付け作業を行ないました。この作業の様子を大



森第四小学校の児童に見学してもらい実際に浜辺でも振り棒の体験を行ないました。大森の往時の海苔養殖作業を間近で見る貴重な機会となりました。その二ヶ月後、浜辺に建てている竹ヒビに海苔が生育していることを確認しました。これはこの事業初めての成果です。

2月中旬でもふるさとの浜辺公園に建てている竹ヒビに海苔が育っています。その海苔のついている竹ヒビを少し採ってきて、海苔のふるさと館の水槽で間近に観察できるようにしました。なお、この竹についてのノリのDNA鑑定が行なわれたところ確かにアサクサノリだったそうです。



海苔網での生育状況については昨年、一昨年と海苔が採れなかった原因のひとつと考えられる海水中に含まれているであろう塩素成分を中和する装置を工夫し、支柱へ固定して中和薬品を点滴したところ、海苔が繁茂していることが確認でき、海苔の収穫に至りました。ただ残念なことに今年は温暖な気候も影響してか収穫量は昨年ほどではないようです。

海苔を通じて私たちの身近なふるさとの浜辺公園や東京の海について水質や環境など多くの課題を勉強する機会に恵まれました。来年度も是非、このような機会をつくりもっと多くの方々に海苔や海的环境について広く知っていただく機会にできればと考えています。(高橋)

大森海苔生産者名板の寄贈

1月22日（土）体験学習室にて、元海苔生産者の名前を記した「大森海苔生産者名板」の寄贈式が行われました。

元生産者らでつくる「名板作成実行委員会」が寄贈した名板には、昭和37年の漁業権放棄の時点で従事していた43丁場、876名の方々の名前が記されています。名板は趣旨に賛同した方々からの寄付によって作成されました。

式には70歳代～80歳代の元生産者ら約60名が参加し、松原忠義区長と平林義正委員長による除幕を見



守りました。その後、参加者の皆さんは名板の前で往時を振り返り、昔話に花が咲いていました。

大森地区はアサクサノリ養殖発祥の地であり、九州など全国に海苔の養殖技術を伝えた一大生産地でした。館に展示されている道具類を実際に使っていた方々の名前がこうして後世に残されていくことは大変意義深いことだと思います。

式の様子が新聞で報道されたこともあり、その後おおぜいの方が名板を見るために来館されています。（小山）

『海苔のこと大森のこと』

～大森の海苔生産者による
本が出版されました～



この度、地元の元海苔生産者の方々による、海苔生産と往時の大森の事柄をまとめた『海苔のこと大森のこと』が出版されました。

この本は、密乗院のご住職須佐知行氏が地元の方々に呼び掛けて編集委員会を結成し、4年の歳月を掛けて発刊されました。

大田区周辺の海苔生産に関する本としては、『大森漁業史』（大森業魚協同組合 1973）、『大田区 海苔物語』（大田区立郷土博物館 1993）などがあります。今回の本は、経験や知識を図式化するなど分かりやすく解説され、実際に携わった方々が執筆したことから海苔づくりへの想いも込められたものになっています。

完成した本は、区内図書館や区立小学校などへ寄贈されたそうです。当館でもライブラリーで閲覧いただけます。ぜひ、一度手にとって戴きたい本です。

（まこ）

『海苔のこと大森のこと』 元大森海苔漁養殖業者＋編集委員会／編
ハングル社発行(2010)2,800円＋税

**特定非営利活動法人 海苔の
ふるさと会会報「大森海苔の
ふるさと館 ニュース」19号**

平成23年3月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347